



開 会 の 辞

公益社団法人 日本証券アナリスト協会

会 長 小 池 広 靖 CMA

第36回「日本証券アナリスト大会」の開会に先立ちまして、主催者を代表し、ご挨拶申し上げます。

「日本証券アナリスト大会」は、日本証券アナリスト協会の認定アナリストであるCMAの役割を広く社会に認知していただくとともに、CMAの自己研鑽、相互交流を目的として、1986年以来、30年以上にわたり毎年続いている歴史ある大会です。今年も、新型コロナウイルス感染症がまだ収束していないことから、昨年に引き続きオンライン開催という形で実施することにいたしました。

さて、新型コロナウイルスにつきましては、ワクチン接種が進んだこともあり、収束後の展望に期待が集まっています。収束後の社会・経済は、デジタル化、脱炭素化に一段と拍車がかかり、社会構造そのものが大きく変わるものと予想されます。その変化の過程では、企業とともにアナリストが果たすべき役割は大きいものと考えています。そこで、本大会におきましては、「ポストコロナ時代を切り拓く企業とアナリストの役割—変革に向けて立ち上がれ日本—」をテーマに議論を展開いたします。記念講演は、お二人をお願いしています。初めに、ソニーグループ代表執行役会長兼社長CEO吉田憲一郎氏より「長期視点での経営とステークホルダー」というテーマで、続いて、早稲田大学大学院教授の入山章栄氏より「世界の経営学から見た日本企業イノベーション創出とアナリストへの視座」というテーマで、お話しいただきます。続くパネル・ディスカッションでは、三菱UFJリサーチ&コンサルティング吉高まり氏に司会をお願いし、弁護士ドットコム代表取締役社長内田陽介氏、東京製鐵代表取締役社長西本利一

氏、SMBC日興証券シニアアナリスト山口敦氏の3名をパネリストにお迎えしました。討議のテーマは、「ポストコロナ時代の構造改革の行方—デジタル化・脱炭素化を展望して—」です。貴重なプログラムが皆さまに新たな視点をご提供する機会となれば幸いです。

さて、ここで当協会の近年の取り組みを紹介させていただきます。現在、CMAは約28,000名ですが、CMAの需要は多様な分野で高まっております。金融・証券業界にとどまらず、一般事業会社の財務部門、IR部門、経営企画などの管理部門、さらには社外取締役など、様々な分野で活躍しておられます。このようにCMAの役割が時代とともに大きく変化していることを踏まえ、証券アナリスト（CMA）プログラムの内容を全面的に見直し、鋭意、改定作業を進めてまいりました。その結果、今年6月に新しいCMAプログラムがスタートし、来年より新しいカリキュラムによる試験を行います。当協会では、この新CMAプログラムのスタートと軌を一にして、新たに「理念・使命・戦略」を定めました。当協会の使命は、広い視野、深い専門知識・分析能力、高い倫理観を備え、時代の要請に応える、金融・投資のプロフェッショナルを育成することです。そのために、市場、制度、技術等の変化に応じた最新の情報を利用しやすい形で皆さまに提供していくよう努めています。その一環として、今年6月に証券アナリストジャーナル誌の電子化がスタートいたしました。これにより、ジャーナル誌掲載論文の閲覧・検索が一段と便利になりました。また、コロナ禍を背景に在宅勤務が多い中、全ての講演会やセミナーについて、動画のライブ配信またはオンデマンド配信での提供を実施しております。

今後も、金融資本市場の公正な価格形成、日本経済、資本市場の健全な発展に資する対外的な働き掛け、情報発信等も引き続き行ってまいります。具体的には、重要性が高まるサステナビリティ報告に関する国際基準設定に貢献すべく、今年3月に有識者による「サステナビリティ報告研究会」を立ち上げ、情報発信に努めているところです。

世界が新型コロナを経験し、社会・経済の構造変化が加速しています。当協会としても、デジタルトランスフォーメーションを積極的に実施し、新たな時代における、社会的使命を果たしていきたいと思っております。皆さまの一層のご協力、ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。最後に、本大会の企画、運営にご尽力いただいている増野委員長をはじめ、大会実行委員の方々に、この場をお借りいたしまして御礼申し上げます。

以上をもちまして、開会の挨拶とさせていただきます。